２０２５年度　おきぎんふるさと振興基金事業報告書

報告日　令和８年１０月２１日

1　事業者名　沖縄市ジュニアオーケストラ

2　申請者　　沖縄市ジュニアオーケストラ　理事長;花城可雅
　　報告者　森山政和

3　事業名　　「オーケストラ活動を通した教育活動と人材育成」

4　事業の目的

沖縄市ジュニアオーケストラは、2012年設立準備会が発足し、三年後の2015年7月17日に、沖縄市「こどもの文化活動支援金」の交付を受け設立、2025年で10年目を迎えた。

本オーケストラは、「オーケストラ活動を通して青少年の健全育成を図るとともに学校・校種や学年の垣根をこえた音楽活動により情操豊かな人間性を育み、音楽を愛好し社会に貢献できる人材の育成」を目的としている。

しかし、子どもの貧困などが大きな社会問題となっている厳しい中で、どの家庭の子どもでも参加できるように、団費は月 1，000 円に設定したため、団運営は大変厳し状況である。

5　事業を活用した課題解決の方策と成果

(1)団費を１，000円に設定したため団運営は大変厳しい状況である。」ことについて

①**支出の部**は、年間およそ230万円である。

②**収入の部**は、年間およそ団費が、毎年50万円、不足分は父母会や理事会で一般の方々に賛助会費として募って支援してもらっている。その他不足分は、繰越金を崩しながら乗り切っている厳しい状況であったが、本事業を活用してゆとりある運営ができた。

(2)「使用楽器は本団で準備し，貸与の形態をとっている。」ことについて

①ジュニアオーケストラの特徴として，身長に応じた楽器を用意しなくてはならない。

例えばヴァイオリンの場合、入団希望者が小1～高3までの身長を予想して 1/4、1/2、3/4、4/4 のサイズをそれぞれ複数本用意する必要がある。チェロも同様である。

以上のように，現存するメンバー分の楽器の用意だけでなく，四種類のサイズの手持ちが必要となるので多額の費用が必要となる。本団は、10年目となりほとんどの楽器がそろそろ耐用年数の限界になってきていて、買い換えの時期となっている。多額の予算が必要となり、本事業の一部が充てられた。

(3)「オーケストラ活動の効果を上げるために、プロ(琉球交響楽団)の指導者5名を招聘している。」ことについて

①弦楽器は、概ね形から学ことが多く初心者の頃から優れた指導者の下でその形をしっかりと学ぶことが大切である。そこで本団では、ヴァイオリン(２名)、ヴィオラ(１名)、チェロ(１名)、コントラバス(１名)の講師(琉球交響楽団所属)を招聘し指導にあってもらっている。年間およそ170万円を講師謝礼金として当てている。本事業が多大な効果を上げた。

6　課題と今後の展望

このたびは、2025 年度貴行の「ふるさと振興基金」から多額の助成金を賜り誠にありがとうございました。

私たち沖縄市ジュニアオーケストラは、日頃の活動を通して青少年の健全育成を図るとともに学校・校種や学年の垣根をこえた音楽活動により情操豊かな人間性を育み、音楽を愛好し社会に貢献できる人材の育成を目的として、この 11 年間活動して参りました。

本団の課題や特徴としては

(1)どの家庭の子どもでも参加できるように、団費は月 1，000 円に設定した。団運営は大変厳し状況である。

(2)使用楽器は本団で準備し、貸与の形態をとっている。(子どもたちの負担減のため)

(3)団員は、小学校1年生～高校三年生の幅広い年齢層で、基地内からの参加もあり活動も活発である。

(4)オーケストラ活動の効果を上げるために、プロ(琉球交響楽団)の指導者5名を招聘していることから、講師謝礼金が、全体予算の約 50%を占めるという厳しいお状況にある。今回、貴行から多額の助成金を賜ることができ感謝に堪えません。

私たち理事会は、課題解決のために、これまで以上に青少年の健全育成や地域に溶け込んだ団運営に精進していきたいと思います。

事業を活用した本オーケストラの活動状況

（1）　第11回定期演奏会
令和7年10月19日（日）
場所；沖縄市農民研修センター





（2）　ロビーコンサート
令和７年12月26日（金）
沖縄市役所





（3）　　具志川メインシティーサンエー
令和８年９月21日（月）





第 12 回定期演奏会

令和 8 年 10 月 11 日（日）

場所；沖縄市市民小劇場あしびなー



